

平成 28 年度第 2 回仙台市経営戦略会議（平成 29 年 2 月 9 日開催）

議事概要

- | | | |
|---|---------|---|
| 1 | 日 時 | 平成 29 年 2 月 9 日（木） 17:00～ |
| 2 | 場 所 | 仙台市役所本庁舎 2 階第 2 委員会室 |
| 3 | 出席委員 | 青木ユカリ委員、吉川時夫委員、木下淑恵委員、佐々木賢一委員、佐々木美織委員、館田あゆみ委員、永見幸久委員、成田由加里委員、本江正茂委員、山口強委員〔計 10 名〕 |
| 4 | 欠席委員 | 大草芳江委員、大黒雅弘委員、西澤啓文委員〔計 3 名〕 |
| 5 | 事務局 | 総務局長、市民局次長兼協働まちづくり推進部長、総務局人材育成部長、まちづくり政策局政策企画部参事兼政策企画課長、まちづくり政策局情報政策部長、総務局総務部行財政改革課長、総務局人材育成部人事課長、総務局人材育成部コンプライアンス推進担当課長、総務局人材育成部職員研修所長、財政局財政部財政企画課長、財政局財政部財政課長、市民局協働まちづくり推進部市民協働推進課長〔計 12 名〕 |
| 6 | 担当課 | 総務局総務部行財政改革課 |
| 7 | 次 第 | |
| | (1) 開 会 | |
| | (2) 議 事 | ・「仙台市行財政改革プラン 2016」の概要について |
| | (3) その他 | |
| | (4) 閉 会 | |
| 8 | 会議資料 | |
| | 資料 1 | 仙台市行財政改革プラン 2016 の概要 |
| | 資料 2 | 仙台市行財政改革プラン 2016 |
| | 資料 3 | 仙台市行財政改革プラン 2016 の累積効果見込額 |

(1) 開会

事務局（司会）

定刻になりましたので、ただいまより平成 28 年度第 2 回仙台市経営戦略会議を開催いたします。

<委員名簿により前回欠席委員の紹介、資料確認>

それでは、会議を進めてまいります。ここからは本江会長のほうに進行のほうをお願いしたいと存じます。本江会長、よろしくお願いいたします。

(2) 議事

本江会長

今日はお忙しところありがとうございます。早速会議を進めたいと思います。

最初に、議事録署名委員を指名しないといけないのですが、出席された委員の五十音順ということになっておりまして、前回は大草委員にお願いしましたので、今回は戻りまして青木委員にお願いします。よろしくお願いいたします。

青木委員

承りました。

本江会長

では、早速、次第に基づいて進めさせていただきたいと思います。

前回10月で2010〈中間見直し〉の実績の確認をしたところでございますが、今回は議題は1個で「仙台市行財政改革推進プラン 2016」の概要についてということで、では事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局（行財政改革課長）

（資料1、資料2、資料3に基づき説明）

本江会長

大部の資料のご説明、ありがとうございました。

どこからでも構いませんので、お気づきの点、ご意見やご質問などございましたら、委員の皆様からお話を伺ってまいりたいと思います。館田委員。

館田委員

館田と申します。

今回2回目なので、よくわかっていない部分があると思いますので、質問をさせていただきたいと思います。今ご説明いただいた各実施項目一覧が9ページと10ページのほうに載ってございまして、その後に細かいご説明がありました。これまでの取組みの中で、前から継続している項目と、今回新たに追加された項目があると思います。どこかにその様なことが書いてあると、前から継続されてきて効果が続いている項目なのか、社会の要請で新たに出てきた項目なのかがわかりやすいのかなと思いました。

それから、私は、いつも仙台市のまちづくり政策局や経済局の方々とお仕事をする機会があって、非常に皆さんモチベーションが高いし、何でもご存じで教えられることが多くて勉強になっています。そこで、今回のこういう実施項目一覧というのが、どういうくくりの中で上がってきているのかという部分に興味があります。行財政改革推進本部で、多分お決めになられていると思うのですけれども、大きな課題があったときに、各部局に振って、ここの項目に何か当てはまるようなアイデアを出しなさいという形で上がってくるのか、あるいは委員会の中でトップダウンに決まってしまうものなのかという部分が気になりました。9ページ、10ページの項目を見たときに、もちろんこれは色々な優先順位の中で決まっていると思うのですけれども、これで網羅されているとどのように決めているのか、おもしろいアイデアがどこかでなくなっていないのかなど、どんな流れで出来てきたのが気になりました。

最後にもう1つ、各項目の説明の書きぶりが色々なのはしょうがないのですけれども、例えばスケジュールという項目について、この項目がある意味があるのかと思いました。毎年「頑張ります」みたいな意気込みを書くような項目になっているのだったら、むしろ事務効率化という意味では、無くてもいいというか、摘要という項目にして説明を書きたい方が書くというやり方もあるのではと感じます。色々な委員会でもそうですが、こういう資料はものすごい労力をかけて作られているのだと思っています。むしろこういうところも削って、余り書くことがないのだったら、無理に書くことはないのではないかなという気もしました。

本江会長

館田委員から大きく3つご指摘がありました。継続のものと新規のもの。それからリストは網羅的なのかどうか。これがどうやって上がってくるのか。3つ目は、このこと自体でも無駄な作業を

強いていないかと。率直な指摘で色々ですが、事務局からお願いします。

事務局（行財政改革課長）

まず、新規項目、それから継続的項目ということでございます。今回、新しい計画を策定するときに、前回と少しやり方を変えて、ある程度まとまりのある項目について、前であれば単独の項目であったものを、主な取組みということでまとめたということがあって、新旧が混在しているということがございます。委員がおっしゃるとおり、新しい項目については明示をするなど、さらにこの計画の意図というか、ここをねらっていくのだなというようなことが分かり易くなるよう、考えていかなければならなかったなと思っております。網羅的なお答えにならないかもしれませんが、例えば、(1)の中長期的視点を重視した取組みというところにある長寿命化に向けた取組みでございますとか、購入電力量の削減といったところなどについては新規項目と考えてございまして、一方、財政健全化、それから収納率の向上といったところにつきましては、これは継続的に取り組んできた取組みということになります。(1) 1③「事業のあり方・進め方の見直し」という項目では、継続的なものもございまして、終了したので新たなものを載せたというところがございまして、特に大きな項目で新しい取組みを申し上げますと、中長期的視点を重視した取組みでございますとか、職員のところで申し上げますと、職員の意識改革の見直しに向けた取組みなどは、新項目ということになってくると思っております。

2点目、この計画をどうやって策定してきたのかというところでございます。まずは、担当課である行財政改革課が、各局に行財政改革に資する取組みとして、今後5カ年間、どうした取組みを考えているのかということ投げかけました。

それから、私共のほうで内容を精査し、もしくは幹部職員のほうから、特に二役などのご指示なども踏まえて、こういう項目については取り組むべきではないかという部分については、担当局とも調整し、この経営戦略会議でのご意見も踏まえながら最終的には意思決定機関でございます市長をトップとします本部会議で成案に至りました。話をまとめますと、各局の取組みを吸い上げるとともに、こちらからも投げかけをしていくというふうな2方向でこの計画をつくってまいったというところでございます。

それから、3点目でございます。昨年度、この計画をつくる段、その前から、ここに書いてある実施項目、目標とかスケジュールというのが抽象的ではないかというご指摘を受けてございまして、事務局のほうでも出来る限り数値化できるものは数値化をしたということは頑張ったつもりではございます。計画でございますので、担当局とも調整しながら、年次でございまして、そういうものは出来る限り明瞭、明確にする努力はしたものの、このような形になったものでございます。

本江会長

事務局から説明がございましたが、いかがでしょうか。

私が言うことでもないのですが、少しフォローをすると、新規と継続の話は、計画の一番後ろにあるこれまでの行財政改革の取組みという資料に、これまでやってきた取組みが示されています。

こういう資料は今まではなくて、計画が終わると何かを忘れて新しいものをつくり直しているような気になっていたのですが、ずっとやってきている取組みもあるし、新しい取組みもあることから、それを一覧表にして何かもう少しメリハリを示せると、自分たちもモチベーションが上がって良いのではないかと思います。

それから、館田委員の3つ目のご指摘はおもしろくて、浅野課長が言われたとおり、もとの案はもっと抽象的だった。何かをやる、やると書いてあったただけだったので、改選前の会議のときに、なるべく具体化しましょうという、ステップならステップがわかるようにしましょうという話があって大分具体的にはなっている。

ご指摘は2方向あって、具体的にしなさいという話と、それが余り意味のない非常に形式的なものになるのだったらやめてしまったほうが良いのではないかとという両論と一緒に言われているの

でおもしろいと思ったところです。

書いたからには本気で取り組むのだらうなということと、わからないということだったら余り無理に格好だけ細かく書いてもしょうがないというのはおっしゃるとおりなので、ここはリアルにやらないと意味がありませんので、そういう身もふたもないこともちゃんと書くということをやれると格好が良くなるかなと思います。これは私の感想です。

他にもあればお願いします。

佐々木美織委員

佐々木と申します。よろしくお願ひいたします。

まず1点は、とても良い取組みがあるなと思って拝見したのが、40ページです。まちづくり政策局の一番後のところの組織縦断型プロジェクト・チームによる政策立案・実行という項目です。仙台市を大きな企業として考えたときに、今の時代の流れで社員の副業を許可するかとか、企業にとって大きな屋台船をどのように動かしていくかといった、団体にとってより効率的で生産性の高い経営になるのかということを考えるべきかと思います。その時に、計画の中で効率的という言葉が出てくるのですが、縮小ですとか、アウトソーシングすることが1つの縮小という意味合いだとするならば、民間のほうで効率的に運営するということの1つが、所属を横断して情報を1つの資産と考えて、それをみんなが使い倒すということです。共同で広報するとか、共同で営業費用を縮小するとか、何かそういうところに関して、効率的という言葉の意味をとらえ直し、民間の事例なども参考に考えられると、この40ページの考え方はとてもすばらしいのではないかと思います。

例えば、32ページのあたりで、今、佐々木賢一委員とともに、活性化会議というものに参加させていただいているのですけれども、「四方よし」という表彰制度ですとか、あと先日ビジネスグランプリがあり、仙台市に本社がある会社がすばらしい音楽のDJの機械を発明されて、それを発売するということがありました。そのような時に、資産として仙台が応援したいものというのは、色々な部局や現場の職員から吸い上げたときに、このようなものもあるよとか、こんなものも使ってほしいよというように、わざわざ外部に調査を委託するなど新しいことをしなくても、吸い上げることで効率的に運営できるのではないかと思います。

あとは、35ページでまちづくりの活動事例集を毎年つくっているということが分かったのですが、印刷業が仙台では盛んですので産業振興課のほうでデザイナーの若手をそろえて、その人たちに一生懸命活躍してもらえる機会を生みだしています。そういうところのクリエイターもそろえて、わかりやすく市民に対してデザインするというような勉強も始めていますので、何の資産が各部局に眠っているのかという洗い出しをしますと、よろしいのではないのでしょうか。やはり、責任の所在もあるので、担当の局というのが頭に立って、このように所管を括弧で書かれるのは、もちろん組織として理解できるのですけれども、かつ協働が可能な局はないのかということで、もう一度この施策を見直したときに、本当の意味でスリム化できるようなところがあるのではないかと思います。

2ページの最後のところが、経済部局の話とも絡むのですけれども、2ページの課題と方向性の下から3行目のところで、中小企業の活性化、起業を生む社会システムの構築、まちに活力をもたらす人材の定着・確保というのがありますが、市税を納めて安心して暮らすということは、安心して働ける場所がある、業が潰れるという心配がなく新しいことに挑戦し、自分の通っている地域企業がまちとともに今後も働き場所としてあるということが、多分、安心してこのまちに住み、このまちを好きになり、働いていない子供ですとか学生さんなどが安心して市民活動ができるということにつながると思います。その盤石な体制を築くには、やはり、地元企業との、もしくは支社を持っている大企業との連携が、仙台市という街の規模からいくと非常に大事になってくると思います。ご説明いただいたところの幾つかに、経済局ですとか中小企業と一緒に考え、タイアップできるようなところがあるのではないかなと思いますので、今後、何か具体的な施策をお考えのときに、その視点を入れていただければ、よりすばらしい計画、実施項目になるかなと思います。

本江会長

ありがとうございます。今の佐々木委員のご意見について、いかがですか。

事務局（行財政改革課長）

さまざまご発言いただいたので、補足的な説明を私からさせていただきます。

最初に 40 ページの組織横断型というところでは、例えば組織として何かしら担当を持って縦割りになっているわけですので、さまざまな部局に渡る課題、例えば、マイナンバーへの対応でございますとか、東西線を活用してのまちづくりということについては、さまざまな職種、さまざまな部局が関係をするということがございまして、そういった意味では、そのための専門の組織を立ち上げるということではなくて、そういった関係の部局が集まって施策を実現していくという取組みをこれまでも進めてまいりましたし、また、その必要が出てくれば取り組んでいくということをここに記載をしたところでございます。

それから、32 ページのところ、地元企業の地域活性化活動の促進というところで、市民協働の担い手の一つとして、やはり地元企業も一つの役割を担っていただきたいと思います。こちらについては、経済局のほうで四方よしということで、売り手よし、買い手よし、世間よし、働き手よし、その四方よしということで表彰する制度というものを今年度から設けて、今後も引き続きそういった形で中小企業の方が地域への貢献について表彰していくという制度を実施しているところでございます。

それから、アウトソーシングというところでお話が出ました。当然、先ほどの組織横断型ということで市役所の力を活用してということもございまして。また、重複するかもしれませんが、例えば、アウトソーシングということであれば、保育所の民営化でございますとか駅業務の委託だとか、この計画では書いてございませんが、前の計画ですと市営バスの運営について民間事業者へ委託するとか、そういう意味で担い手というのを見出しながら、民間の皆様方へお願いできて、コストだけではなくて、さらに効率化につながる取組みというものは、そのときどきで課題を見つけながら取り組んでまいりたいと考えております。

本江会長

ありがとうございます。

佐々木賢一委員

男のほうの佐々木でございます。

41 ページのところ、これまでの財政改革の取組みについて、私は前回も参加させていただいたので、こういうところはずっと拝見させてもらったのですが、この財政改革というのは、多分企業でいえば、売り上げ向上とコスト削減とがあって、売り上げのところは、実際にその売り上げを拡大する話と、会社でいえば売掛金を回収しますという話があると思います。その回収率を始めとする債権の回収の話とか、あとは職員数とか、施設の見直しでのコストダウンというのは、もう長年やっていらっしゃって、まだその余地があるから効果が出るのだとは思うのですけれども、やはりかなり突き詰めていらっしゃるのだろうなと感じています。

一方で、売り上げ拡大の話というのは、さっき仙台が今置かれている状況の中で、将来的には確かに人口が減っていくのですけれども、まだ増えていくのですよね、足元で。やはり日本の中でもこれだけの規模でまだ伸びているところというのは、本当に数限られている都市だと思うのですよ。ですから、今の仙台だからやれる拡大策というのは、実は非常にあるのではないかなという感じがします。

かつ、仙台というのはブランドも強いし、ほかの地域に比べれば十分活力があると思いますし、あとは、学都仙台というのがたまに話題になりますけれども、やはり若い人が多いですね。先程、佐々木さんがおっしゃったようなベンチャーや中小企業の元気なところが出てきているので、何か

ここ数年の仙台だからできる、そういう拡大策というものも積極的に考えていただけると、非常に良いのではないかなという感じがします。しめていくぞということだけではなくて、とにかく仙台の地の利とかブランド、仙台の良さというものを、いま一度職員の方々とか、委員とか、市民みんな考えていくような施策なんていうのはどうなのかなと感じています。

本江会長

今の佐々木委員からのコメント、攻めの運営をしますよということは実施方針の1番に係るところかと思いますが、いかがでしょうか。

事務局（行財政改革課長）

収納率のところでいいますと、取組みをずっと継続してきて、功を奏しているというところもあって、かなり高いところまで来ているというところがございますので、これをさらに目標的には上げていきますけれども、維持をしていくというところのステージに移りつつあるのかなと思ってございます。

それから、主に、先ほどの冒頭の何が新しい項目でというお話にも戻るわけですが、市税とか国民健康保険料とかについては継続的に行ってきたところがございます、それ以外にも私共さまざま市民の皆様から本来頂戴しなければならないものが幾つかあるわけがございますけれども、その取組みというものについても、やはり頂くべきものは、負担の公平という観点から取り組まなければならないだろうということで、No.8で市税や国民健康保険料を始めとする市有債権の適正管理というものについても、条例を定めて今後これから全庁的にどういう形で取り組んでいくのかという動きを始めていくところがございます。それが売掛の部分の話になってこようかと思えますし、財源創出の取組みということでは、これまでもやってまいりましたけれども、広告収入の拡充であるとか、ふるさと納税制度を活用とかというものは、これもまた継続的に取り組んでいくことだと思っております。また、その攻めの部分と申しましょうか、仙台のブランドという話でありますけれども、十分なお説明をしないままになります、今後の本市の対応すべき課題と方向性ということで、本市がこれからどういったことをしていくのかというところで、人口減少社会に向けた取組みであるとか、東北発展のための取組み、東西線を契機としたまちづくりの展開等については、この計画とはまた別に、政策重点化方針2020などで定めて、さまざまな取組みを今後進めていくというような形で、役割分担をしながら仙台市全体としては取り組んでいくこととしているところがございます。

本江会長

よろしいですか。では、永見委員、お願いします。

永見委員

永見でございます。よろしくお願いたします。

2点ほど教えていただきましたのですが、1つは26ページ、No.34の交通局のところになります。

今日の新聞だったかどうか不確かなのですが、市バスがかなり赤字化するという記事がありました。急いでいて斜めにしか読んでこなかったのですが詳細はわからないのですが、市バスのほうに赤字があると。なおかつ、知人から色々聞く話ですと、東西線が開業して、便利になった人もいますが、昔のほうの利便性はよかったというようなお年寄りも結構いらっしゃるという話も聞いております。ですので、今、こちらのスケジュールのほうに28年度、29年度、運行経路、本数の見直し等の検討云々がございますけれども、この内容について、多分市民の声の反映などもされているのだろうと思うのですが、机上だけではなくて、より市民の方のそういったサービスに関する意見などを吸い上げて、今後の計画策定並びに30年度の実施といったところにつなげていただければ

ばなと思っております。

もう1点が、これはNo.28の保育所のほうなのですが、民間活力による事業の推進、保育所を民営化していこうという目標のところ、毎年概ね2カ所ということで書いてありますが、この2カ所をしている理由は何かあるのか。受け皿となる企業のほうの都合なのか、あるいはそういった企業に、会社側に落とし込んでいく市役所側のほうに2カ所にせざるを得ない理由があるのか、その辺を教えていただきたいと思います。

本江会長

具体的な指摘があったところでした。いかがでしょうか。交通局と保育所の件と。

事務局（行財政改革課長）

1つ目の交通局の動きにつきまして、東西線が開業して1年超ということになりますけれども、私共とすると、東西線をなるべくご利用いただくということで考えているわけでございますが、今後交通局において、経営状況を勘案してということにもなると思いますけれども、市民の皆さまにもご協力いただきながら、更にバス路線をどうしていくのかということについて考えていくことになるかと思っております。

それから、保育所の民営化につきましては、まず担い手を見つけるということも一つ重要な要素でございますが、概ねこれまでも2カ所程度で実施してきたということもございまして、そういう意味で、必ず2カ所ということではなくて、概ね2カ所程度としております。また、老朽化したときの建て替えのタイミングということもございまして、老朽化してもうそろそろ建て替えなければならないという建物との兼ね合いや、それから、実際民営化したときの担い手との兼ね合いがございまして、機械的に2カ所ずつということではなくて、そういったこともらみながら概ね2カ所ずつ民営化を進めていきたいと考えているところでございます。

本江会長

ありがとうございます。成田委員、よろしくお願ひします。

成田委員

ご説明ありがとうございました。前回いなかったもので、同じような質問がありましたらご容赦いただければと思います。

資料3を拝見して、累積効果見込みというところで160億円捻出されたというところに、これでは色々な事業がまたできるだろうなどお話を頂戴したところではございました。

ただ、この160億円は5年で割ったら実は32億円で、当初予算と比べると0.6%、それでも32億円という数字が出たことについてはどうこう言うことはないのでございますけれども、0.6%というときに、それはさっき館田委員からの質問に対してご説明があったように、要は現場から上がってきた縮減できる部分についてはこの分ですということなのだと思います。

一方で、1ページです。本市をとりまく状況というところを眺めておきますと、40年後のことを考えたときに、108万人から相当数人口が減ってきますし、1ページの下段5行ぐらいに、義務的経費の増加、それからアセットマネジメントを行うに当たって必ずかかってくるコスト、高齢化の問題とか、固定的にかかる費用が相当数増えてくる。恐らく公共施設等総合計画をおつくりになっていらっしゃると思うので、単年度ではなくて40年スパンで考えたときに、実は次世代に対して、我々現役世代は、行財政改革の数字としてどれだけ圧縮しなければいけないのかとか、長期的なスパンでのどれだけしなければいけないのかという部分が見えてこなかったもので、なかなか難しいと思うのですが、もしそういう数字がわかっていたら教えていただければと思うのですが、いかがでしょうかというのが1点目です。それは2ページの下から5行目ぐらいから、攻める仙台市というところで、非常にわくわくする施策を記載していただいているのですが、そ

れも踏まえてどうなのかなと思ったところです。

もう1点は、先ほど来のお話に出ていましたように、ずっとやってきたことに対して成果が色々あると思っていて、特に人材の育成というところでは、従来からずっと取り組んできたわけです。その中で、やはり震災を経てエポックな時代をすごくお忙しい中で力を発揮してきた中で、恐らく効率化とか、いわゆる3Eの観点ですね。経済性、効率性、有効性というあたりについては、非常に市民からも厳しく見られてこられたのではないかなというふうに思いました。人材育成の中で、そういった3Eの観点で仕事をしていくという部分については、具体的に人材戦略を展開してきた中で、どのような点で市役所の皆さんが変わってこられたのか。今後、何よりも一番基本は人かなということもありましたので、その点をお伺いしたいと思います。

前年度から、皆さんに仙台市好きですかとか、大好きですよとか、仙台市の職員としての誇り高く我々は職員であるぞとか、もっと明るく楽しい分業はいかがですかと申し上げたのですが、なかなかそれは難しいというご回答をいただいていたのですけれども、攻める仙台市というところでも、そういうお力が出てきたのではないかなと思っています。その辺のマインドについてももし変化がおありになったら、そこもあわせてご説明いただければと思います。

事務局（財政企画課長）

財政企画課の山口と申します。よろしく願いいたします。私のほうからは、公共施設のマネジメントの将来的なコストのことでお話しをさせていただきます。

マネジメントプラン自体は、平成25年度末、平成26年3月に策定したものでございますけれども、まずこの公共施設のあり方、従来のあり方を続けますと、当時の今後50年間というものの平均の年額といたしまして844億円ほどかかるという試算をしたところでございます。ただ一方、従来の普通建設事業費という投資の部分の水準が600億ほどでございましたので、250億近くという大きな差が出るというところはもう明らかなところで、今後公共施設については、適正な管理、長寿命化とかを図ることによって大体630億ぐらいの水準にとどめ、またその後は民間活力の活用などによってできるだけ従来の600億の水準にとどめようというプランになっておるところでございます。マネジメントのコストについては、以上のような試算をしているところでございます。

事務局（職員研修所長）

職員研修所の高島と申します。これまでの取組みの中で、特に人材育成のほうにどのように力を入れてきて、その結果、マインドがどのように変わってきたのかというご質問です。

ご承知のように、この行革プランでも職員数がどんどん減ってくる中で、行政ニーズの量は、高度化ですとか、多様化とか、そういうものに対応していくために一人一人の職員のパフォーマンスを当然上げていかなければいけないということで、仕事の生産性、効率性をいかに高めていくかという、そういう部分には相当力を入れてきております。特に若手職員に対する研修を、ここ数年、強化してきておまして、要するに今ある仕事をそのままこなすというのは、もう今の時代、通用しなくなっているということで、今までの仕事のやり方の踏襲が逆に足かせになってくると、これからの時代ですね。そういうことで業務改善のような研修なり、これは行財政改革課の取組みですが、カイゼンアイデア育成制度という、広く職員から業務改善のアイデアを募って、基本的には職員投票で競うというようなことをしており、かなりその件数が上がってきたと聞いておりますし、そういう中で、ある程度研修的な取組みが中心になってはおりますけれども、日頃の業務なども通じて、組織風土的なものを、もっとどんどん若手のアイデアが組織の中で生かされるというようにするなど、そういう部分も含めてこれからも力を入れていかなければいけないと考えております。

成田委員

マインドは変わったのですか。

事務局（職員研修所長）

これはどうやって押し量るのか、難しい部分でございますけれども、先ほどのカイゼンアイデア育成制度みたいなものも相当な件数上がってきておりますし、研修の結果、結構、職員の目の色が変わるとか、要するに色々チャレンジして、例えば、派遣研修とか海外に行かせるような研修も今回再開しておりますし、そうした中でどんどん新しい政策にチャレンジしていくようなそういう職員は増えてきていると思います。

事務局（総務局長）

総務局長の加藤でございます。

2つの点の最初の話でございますけれども、そもそもこの計画が始まったころは、この5年間でこのくらい収入が足りない。だから何とかしなくてはならないということで何回か作ってきました。

ただ、その都度その都度なのですが、500億円足りない。それでは、幾らなら対応出来ますかということで、今回の160億円ではありませんけれども、500億円足りないのに、今作っているこの計画では160億円ですというような計画を示してきました。

では、この数字というのは、足りない分を埋めるためにあるのではなくて、もうそういう数字を立てても、うその数字とまでは言いませんけれども、現実的にそうはならない。であれば、長期的にどのくらいお金かかるのかという大きな流れは押さえながらも、仙台市の体質の強化を図るための計画として行革計画を捉えましょうと。収支不足を埋めるための計画ではなくて、仙台市が色々なことをするためにも人の余力を残すとか、お金の余力を残すとか、あとはそういった中で筋肉質の体にしていこうと、そういう計画が行革計画なのだ。収支不足の抜本的な改革は、申し訳ないのですが、財政制度なり税制なりでもう少し大きなところでやる。ただ、仙台市がやれることは、まずやりましょうということで、細かいお金の話というのが段々この行革計画で、回数を重ねるたびに後方のほうに追いやられていきまして、それよりはむしろ仕事の仕組みを変えようということが前面に出てきたというところがあります。逆に言うと、そうするとスケジュール観がなかなか出しにくいところがありまして、そのようなことでこのような計画になっております。

もう一つの職員のほうは、これまで色々な場面で職員は頑張っているよねと、この経営戦略会議でもそうですけれども、もう一つコンプライアンス推進委員会という会議もやっておりまして、そちらのほうでも職員も頑張っているよねと。それでは、それをきちんと職員に、あなたたちが頑張っているのを認めているよということを示しなさいということで、今回、37ページに職員表彰制度の積極活用ということで、これは2つの会議で委員の方々に様々なご指摘受けまして、それで頑張っていることは頑張っていると認めるけど、もっと頑張っただけというような取組みを入れたということで、これが仕事のほうの業績評価と、業務でこんなアイデアを生み出しましたということも褒めていますし、あとは仕事以外で一市民として地域に貢献したことも褒めるという二本立てで、やっとな今年始めたばかりですので、もうしばらく見守っていただければと思います。

本江会長

コーチングですね。成田委員、いかがですか。

成田委員

ありがとうございます。実は37ページの最後の職員表彰制度の積極活用を拝見しまして、感嘆の声を漏らしたというのも事実でございますし、そういう取組みをしていただいたということもわかりました。また、数字についても承知しました。

ただ、目標値の設定として、5,067億円の当初予算に対して、仙台市で何%といったようなある

程度の目標というときに、全体で何%、だから各部局ではこの%でいく、どこで工夫をしていこうかという取組みを期待してしまうのですけれども、目標値の設定という点では、通年方式とは別にあると、市民としてはわかりやすいと思います。コストの考え方からいうと、マーケットインで入るか、コストアップで入っていくかというか、環境に合わせてコストを削減していくのか、それとも、できる範囲でやっていきたいと思いますというものなのかというところは、先ほども説明があったのですけれども、その中間として目標値を設定する考えなのですか。

事務局（総務局長）

先ほどもお話ししましたけれども、これまで何とか差を埋めるために、仙台市の財政規模はこのくらいで、5年間でこのくらい不足します。これをどうしましょうかと。ただ、螻蛄の斧ではないのですけれども、まさに抜本的に仕事をやめるというような計画というのは、我々市民生活の最低限を維持するという大きな役割がある中で出来ない。仕事の財源というのは、我々が生み出す部分、国の財政制度で生み出す部分と色々ありますので、我々としては、我々の生み出す部分あるいは我々が削減できる部分についての努力目標と計画はつくりましょう。ただ、もっと大きな部分については、その大きな部分のほうが、先ほどの数字の感覚でいえばはるかに大きいのですけれども、それについては、全国の自治体が声を上げて、財政制度の見直しなどを目標として掲げる。ただ、国会でも議論になりますけれども、自治体は、何もしないでお願いしているという議論にならないためにも、これだけやっていますと。これだけ一生懸命やっているのですけれども、全体としての生活を支えるために必要な財政制度のあり方というのを見直してほしいという声を上げるために、まさにこれは市のサービスレベルをどうやって維持、向上させるかというときにその筋肉質にしましょうということです。数字的には、そういう意味ではつり合わない部分もあるかもしれないのですけれども、まさに運動体といいますか、仙台市の仕事の取組み姿勢として、目標を掲げてやっていくということが全体的な意識の改革にもつながるという意味でのシンボリックな数字といった意味も多分にありますということでご理解いただきたいと思います。

本江会長

では、木下委員。

木下委員

2つほどあるのですけれども、1つは、基本的なことですが、今まで色々議論ですとか、こうした資料を拝見しております、項目ごとにメリハリということを随分取り組んでこられて、厚くするところ、それから盛り過ぎているところなど濃淡をつけられてきたと思うのですが、そうしますと、次に私個人として気になるのは、エリア的な濃淡をつけるという必要がもしかしたらあるのかもしれないという部分です。人口減少ということが先ほど出ましたけれども、私もやはりそれを意識してしまって、積極的にいけるエリアとそうとも言えないエリアというのが仙台市の中に色々あると思われまして、取り上げるのは余りそぐわないテーマなのかもしれないのですけれど、インフラの維持というようなことを言っても、市内どこも全て同じようにやっているということでは、やはりちょっと難しいところが出てくるのではないかと思います。この先何年もありますとそのあたりのことについて、もちろん具体的で明確なお話というのはこういう場では難しいと思いますけれども、そういう部分で濃淡をつけていくということについての認識を伺ってみたいということが1つ目です。

それからもう1つは、ともに行うまちづくりに向けた取組みということで市民協働事業提案制度など、この先、市民が色々参加していく機会というのが多ければ多いほど良いと思われまして、それを望む人というのも増えてくるので良いと思うのですが、市民からの自由提案というのは、多くの市民の方のご存じなのでしょうか。外国ですと、議会のほうに提案をするという制度がある国はあったりするのですが、市の行政のほうに提案するというのは、何となく普通に想像して連想

できる人がもしかしたらあまりいないのではないかなと思いましたので、そのあたりをお聞かせ下さい。

本江会長

2点、エリアの話と提案制度の話とですが、いかがでしょう。

事務局（政策企画課長）

政策企画課長の品田と申します。

エリアという形で直接のご回答になるかどうか、少々自信がないところはあるのですが、例えば、新年度予算で、我々まちづくり政策局及び市民局も共同ですが、例えば、人口が非常に少ない西部のまち、西側のところ、あるいは中山間地、あるいは郊外住宅、そういった所でさまざまな問題が現実には発生している、内在していると考えています。その中には、今委員ご指摘の例えばインフラの問題もありますし、それを支えるコミュニティーの問題もありますし、そのようなところに個別にプロジェクトとして、まずは地場の人たちと我々、更には民間の方々を含めて、何が問題で、どうしなければならないのか、恥ずかしい話ですが、そこからまず徹底的に見直してみようというのが新年度の予算の大きな流れになっているところがございます。

そのような中で、例えば新しいことを始めるにあたって、これはさすがにコストと見合わないであろうとか、あるいは、もっとこういうことをやるとこういった成果が出てくるであろう、そういったところの濃淡といった部分は当然出てくると思います。一方で、例えば市の中心部、人口が増加しているところがありますが、そこには恐らく高齢人口がもっとも増加していくといったようなところがあり、それには例えば社会保障サービスをどうするのか、そういうことを、例えば民間の方々と同時にやっていく。我々だけではなく、いろんな主体のアクターの方々もやっていく、そういったことを踏まえた形での今後の施策の考え方というのを新年度予算で出しておりますので、それを踏まえまして、更なるこういった形の落とし込みを今後続けていくことができると考えております。

事務局（市民協働推進課長）

市民局の市民協働推進課の平嶋です。

市民協働事業提案制度ということで、この制度は平成24年度から始まってございまして、それぞれ役所の強みもあるだろうし、市民団体や市民の方々の色々な強みもあるだろうということで、それぞれその強みをお互い生かして、課題解決ですとか地域の魅力向上とか、そういったものに取り組んでいこうというものでございます。今年度、5プログラム5事業ぐらいやっていますけれども、これまで延べ16件ほど、市民の皆さんからいろんな課題、それは特殊な分野もあったり、さまざまあるのですけれども、そういったもののご提案を受けて、やはりそこに我々が課題として思っていることがあって、そこで認識が一つになったときに、じゃあそれぞれの力を出し合ってやっていきたいと思いますというふうなものでございます。特に今年度ですとホームレスの方々の実態調査ということをやっております、役人がお話ししても、中々色々なヒアリングとかに応じてくれないという方も、炊き出しをしている団体の方たちですと色々な話をしてくれるとか、それぞれの長所を生かしながら調査を進めてきているということもございます。

また、障害者の理解促進ということもやっておりますけれども、実際こういう制度があるかどうかというところでPR等々もしておりますのでございまして、自由提案ということでこれまでやっておりますけれども、昨年度からは、我々が行政として解決したい課題を提示する、行政テーマ設定型というようなものも導入しまして、少しずつ形を変えながらPRしつつやっておりますのでございます。

木下委員

ありがとうございました。

1 つ目のほうについては、別に人口が減ったところは切り捨てるとかそういうことではなくて、ただ、いずれ便利なところに促すとか、この先、すぐにではなくても、何かしら対応する必要が出てくることもあるのかなと思ひまして伺いました。ありがとうございます。

本江会長

ありがとうございます。吉川委員。

吉川委員

具体的な点について3点お伺いしたいと思います。先ほど永見委員もお話しになった保育所のことなのですが、一応年間2カ所ずつの民設民営化を進めていくというお話がありました。昨年の流行語と申しますか、「保育園落ちた。日本死ね」という言葉がありましたけれども、この仙台市の需要に対して保育所の適正化ということに関しては、どのように認識されているところでしょうか。

直していくということはよろしいのですけれども、果たして現状で保育所は足りているのかというところをお聞きしたいということでございます。

それから、2点目は学校のことです。今、中学校63校、小学校121校と私は記憶しているのですが、その学校の設置数ですけれども、例えば、規模的に本当に少ない学校もありますよね。それに対し、私の地元で岩切小学校みたいなのは1,100人もおるような規模を持つ学校になっています。こういったところの適正化に関する考えはどのようにお持ちになっているのでしょうか。

それから、私は町内会活動をやっているのですが、区役所の機能強化ということは、まことに結構で、ぜひこれを大いに推進していただきたいと思いますと思うわけですが、具体的にどのような施策というか、考えを持ってこの機能強化を図っていくのか。私達は、地域の人たちから、毎日地域の事細かな問題をたくさん出されるのですよね。それを区役所に訴えているわけですが、容易に解決が難しいというか、解決がなされてないということがありますので、その点をよく考えていただければと思っております。

本江会長

ありがとうございます。学校と保育所と区役所ということでした。

事務局（行財政改革課長）

まず、前段の保育所、それから学校のお話でございます。この計画に載せてございます保育所民営化ということでは、今、私共が公立で持っている保育所について、民間の方々力をかりてやっていこうという取組みでございまして、高まる保育需要というものについては、保育所の更なる整備でございますとか、必ずしも保育所というハードだけではなくて、例えば小規模の施設や、家庭でお子さんを見ていただくような制度などに総合的に取組みながら継続的に対応していくということになってくるかと思ひます。

それから、学校の規模ということにつきましては、今の児童、生徒さんの数ということもございまして、その後、この地区が例えばマンションが建ってもっと児童、生徒さんが増えていくだろうとかという見通しも踏まえながら、どういった学校の規模だったり、学校の数であったりというところは、そうした将来の児童生徒の数の推移を見ながら、これもその適正にどういう形があり得るのかということについては、関係の部局で適正な学校のあり方というものを考えながら引き続き取り組んでいくということになってくると思ひてございます。

事務局（次長兼協働まちづくり推進部長）

もう一つのご質問でいただきました区役所の機能強化について、お答えしたいと思います。

区役所の機能といいましても、大きく分けましてまちづくりとか保健福祉の分野、それから、建設、道路の補修ですとかそういうものも含めて大きく3つに分かれると思うのですけれども、来年度に向けて、まちづくり部門について機能強化を具体化していきたいということで、今検討をしております。

震災後、やはり被災者支援ということで、そちらにかなり力を入れて、新たなコミュニティの形成などにも取り組んできたところなのですけれども、震災復興に取り組む中で、これまで本来的には取り組むべき課題だったものが、優先順位としては落ちていたというところがございます。

そういったところにもう一度光をあてて、町内会の皆さんですとか地域でさまざまな活動をされている団体の方から、まずはお話を聞きながら、区役所のほうでも、具体的には35ページにありますような地域連携担当職員、今各区役所で22名ほど置いているのですけれども、こういった職員を増員いたしまして、しっかりとそういう課題に取り組めるような形をつくっていききたいということで今具体的に動いているというところでございます。

あとは、保健福祉センターのほうの拡充ということにつきましても、色々介護保険制度などが大きく変わるなかで、地域包括ケアというところを担う取組みも重要になってきていますので、そういったこともあわせて徐々に計画的に取り組んでいきたいという方向性で今動いております。

本江会長

先ほど総務局長が言われたように、ここは大胆に必要なことをやる事が出来るような筋肉質な体制をつくりましょうということですので、先ほど言われた学校のメリハリのことなどは、勿論やらなくてははいけなくて、この会の趣旨としては、それをやれるようになるためにはどうするのかという話も含まれると思います。そうしたところに問題があると感じているところに市が対応できるような鍛え方をしないといけないということかと思っております。何かありますか。

事務局（総務局長）

保育所の数などにつきましては、担当部局で需要を推計し、民間に働きかけて公立保育所以外で保育所を増設するという計画をつくって対応しており、成果が毎年見えないのですけれども、ゼロにならないから見えない。そこだけ捉えると何もしてないように見えるのですが、実は間違いなく相当数の保育所、お子さんを預かる施設というのが増えてきております。

学校については、学校規模適正化という取組みをしまして、学校の規模はどうあるべきかという議論を長年してきたのですが、その中で地域事情など色々考慮して、仙台市として無為にこの学校を廃止しようということではなく、余りにも少人数化して教育に不十分なところがあるのであれば、そこを地域のご理解を得られたところから進めていくこととしています。現実には、その取組みをする前に3.11の震災があったので、まさに学校そのものがなくなったところ、周辺に住んでいる住民が減ったところの統廃合という部分を進めてきておりますけれども、もちろん西部地区のほうで人口増えているところ、人口減っているところ、それぞれについての課題認識と一定の整理の方策はございます。ただ、何にせよ地域の核になる施設だということもありますので、一方で人口が増えてプレハブ校舎で我慢してもらっているところもありながら、もう片一方で少人数のため教室が空いているという話は確かにあるのですけれども、基本的なスタンスとして、やはり地域の住民の方々の中心となる施設だという意識を持って、住民のご理解を得ながら進めていくこととしております。また、学校のプレハブについては、現在も、東部のほうでは進んでおりませんが、西部のほうでは、愛子の近辺では、また新年度も中学校を新たにつくるなどの対応を進めております。

本江会長

ありがとうございました。では、青木委員。

青木委員

ご説明ありがとうございました。

こちらのプラン全体の大きな柱に、市民とともに行うまちづくりがあります。そちらに関係する部分で私共も一緒させていただいている事業も幾つかございます。推進していく環境が整ってきていること、区役所のまちづくり拠点としての認識を、こちらの計画からも改めて感じさせていただいておりました。

私は、区で行われているまち活助成の評価委員会にも参加をさせていただいておりますが、町内会の会長さんや各地域の活動団体の取組みなど、本当に様々ある中で、身近なところでの相談先といったときに、まちづくり推進課に、熱心に助成活動の機会を捉えながら相談にお越しながらという姿を何度か拝見しております。

仙台市は5区ございますので、様々な地域で多様な部分がある中で、そこでの暮らしの部分ベースにしながら活動している団体も多岐にわたっております。私共の接点があるところも、限りはありますけれども、いろいろなしくみができる中で、それを活用できるように市民の皆さんとのコミュニケーションもまた捉え直しながらサポートできればと改めて感じたところです。

そのため、今後の区役所との私共の関係という部分も、今日のお話を伺いながら考えてみたところもございますので、またご相談などもさせていただきながら、ともにまちづくりの推進に向かっていきたいと思っております。感想となりますが、以上です。

本江会長

今、青木委員から頼もしいお話がございまして、市民の側も活用せよというお話だったと思うのですが、何かありましたらお願いします。

事務局（協働まちづくり推進部長）

色々と日頃からご協力いただきましてありがとうございます。この場をかりまして、まずは御礼を申し上げたいと思っております。

やはり区役所を通しまして色々なお話を聞きますと、本当に一生懸命やられるというような意欲に満ちた地域もありますし、あとは一方で、本当は色々なところがやりたいのだけれども、どこにどういう人がいて、どこにどのようにアドバイスをいただくのかまだわからないという地域もありますので、そういった地域にはやはり市民活動団体の皆さんのお力もかりながら、市役所としてもしっかりと向き合って、様々あります地域課題について、協働の仕組みというのも整ってまいりましたので、そういう制度なども、ご利用についてのご案内をしながら今後着実に進めていきたいと思っております。本日はそのあたりのエールをありがとうございました。

本江会長

改めて私も読ませていただいて、パノラマの説明を伺って、大変に色々なことをバランスよく漏れないようにやってらっしゃるということを改めて感じました。

自分でもこれを作るのにコミットしていたから、あんまり言えない立場なのですが、あえて申し上げると、すごく目配りよく全面的な改善を力強く進めるという感じなのだけれども、何か破壊的なイノベーションに対する態度というか、何かそれを自らやるとか、あるいはそういうことが起こったときにどう対応するかの話が全くないので、何かちょっともろい感じがしました。これは印象になります。

例えば、品田さんがご専門ですけれども人工知能の話とか、何か破壊的なことが起こりそうな気配が現在ふつつつとあると。官民連携が今までにないような規模で大規模に行われるとか、公務員でも副業をもっと大々的に行うようになるとか、働き方やプレーヤーの配置の仕方が根こそぎ変わるようなレベルで起こりそうな感じがあります。民間ではそういうものも現実に起こってきており、ワークシェアリングであるとか、在宅勤務がもっと大規模に進むというようなことが言われている

中で、実は、役所として多様なステークホルダーと一緒に働いていくということの大きいビジョンが余り語られていない。今やっていることの効率を上げながら進めるということというのは、それはそれでやらなければいけないことで、頼もしいことではあるのだけれども、何かとんでもない新しいサービスのあり方等が起こった時に、民間企業のように市場を奪われて潰れるみたいなこととはないのだけれども、これだけだとちょっと危ういのではないかなという感じがしました。

市長が新庁舎のことに言及されたりしていますが、新庁舎を造るのは、単に新しい建物を造るという話ではなくて、働き方をリセットするためにやるもので、普通、企業が本社を建て直すというのはそういうことですから、そのビジョンなしに役所を建て直してしまうのは危ういという感じも持っています。

そのため、ここは体質に関わる戦略の会議なので、筋肉質になって今やっていることを効率よく改善してやっていくということと同時に、何か行政がそもそもどういうものであるのかということについてのビジョンを同時に用意していかないと、このじりじりと推し進める改善だけだとどうにもならないような感じもしております。

前の計画に比べるとずっと色々なことを工夫しながらやるという感じになってはいる。所管のところも複合的に入っているし、括り方も連携をしながらやりますよとなっているので、大分フレキシブルに色々なことに対応しようということになってきているとは思いますが、やはりそれでも何となく限界があるような感じがします。

つまり、全く違う構造について検討してみるということが組織的に行われていないように感じます。例えば、企業だとフューチャーセンターというのがあったり、あるいは社長のところに特命の別のチームがあったりして、全然違うことをやってみる、あるいは可能性を考えるみたいなことが行われている。仙台は大きいので、仙台が行き詰ると東北丸ごと危ういので、もう少し大きなドラスティックなことが起こるときにどう対処することができるかというようなことが、少なくとも戦略会議と名乗るのであれば、入っていても良いのではないかと思います。

ある程度のところまで出来たので、また高望みをしているということでもあるのですが、ただ、世界的にも起こるはずがないと思っていたことが次々起こりつつあるので、何かそういう構えがいてのではないかなと思います。具体的にどのように表現したら良いかわからないのだけど、そこら辺のステップが何か入ってこないといけないような、そういう段階にあるのではないかなということを含めた感想として申し上げます。

事務局（総務局長）

大きな技術革新とかの話については、実は、わずかなのですが、例えばマイナンバーカードが入ると一体どうなるのだろうかというようなことを考えますよというのが、36 ページには忍ばせてあるのですが、我々が具体的に何かの展望を持っているわけではなく、正にまだ考えている段階なので、こんなことをしますというものが打ち出せていないという部分があります。

最初の話に戻りますが、実はこの経営戦略会議の立ち上げのときから、本江会長には、まず仕事の仕組みを変えるのであれば庁舎を変えなさいと言われ続けて、やっと昨今話題になってまいりましたが、職員の仕事の仕方について、民間で当然やっているパソコン等をベースにしての出退勤管理から色々な電子決裁に至るまでトータルにそのシステムをどうするかという部分も含め、新庁舎とセットで考えるというのは当然だということで市長、副市長からの指示も受けております。

来年度から新庁舎の基本構想の策定に向けて動き出したということで、新庁舎に向けてあるべき市役所の姿に合わせた建物をつくるというのは、中々見えるところまで進んでおりませんが、正におっしゃるとおりでございますので着実に進めていきたいと思っております。

もう一つの新しい仙台において、どのような取組みをするかという部分については、この会議の場をお借りしまして戦略特区の話などに関連して、仙台市では今後こんなことをやるという部分も、今年度からこの会議に報告することとなりましたので、そうしたことを通じて、地味な部分ともっと未来に向けてという部分と両方をこの会議でご議論していただきたいということで考えており

ます。

本江会長

マイナンバーの話は2カ所出てきていて、19ページのNo.18でマイナンバー制度の活用という取組みがあって、でもこれはカードを使うとIDカードとして使えて便利ですという感じで、悪いけど表面的な話です。総背番号になって、収入が捕捉出来るようになった時に、どの様なことができるだろうかということがもっとずっと重要な事なのだけれども、それはNo.47の沢山ある取組みのうち1つにちょっと書いてあるぐらいで、その辺りがじわじわと改善する部分はイメージしやすいから列挙できるけど、ただ戦略会議と名乗るのだから、何かもっと根こそぎ変わらうという部分の話もするのですよね。もちろん原理的にそれは難しいわけですが。建物を建て直すのはきつかけなので、よく考えると建物は要らないという考えもあるのですよ、オプションとしてはね。本当にそれはあり得て、例えば、デトロイトの真ん中にルネッサンス・センターというのを建てた直後にアメリカの自動車産業が下火になっていますから、やっばりの外れなことをやると危ういのですね。

この戦略会議は物事を一つ一つ詰めていくというよりは、大きく物事を考えて良い場所だと思っておきまして、これはまだ出来たばかりの計画で1年目だからこの後やっていきますよと、ただ5年間この話を毎年やっていくと、多分、それだけじゃ済まないことが色々起こってくると思いますので、働き方が今ものすごく変わっているところだから、そこをちゃんと見据えてやるのが大切だと思っております。これは感想です。他に何かございますか。

館田委員

1点だけ。この計画に事業を色々ご記載いただいて、とてもおもしろく拝見したのですが、この前、私的な経験で大変恐縮ですけど、ファイルメーターという単位、要は働く人が自分の周りに書類を積み上げたら何メートルになるだろうという測り方があって、それを2メートルから1メートルに下げている、そのマーケティングのオフィスは1枚も紙がないというのですね。本当に偉い人も皆紙を使うこと無く仕事をしているということには驚きました。そういうところで具体的な働き方を、仙台市はこうやって変えていますということを、一部でもそういうイノベティブな効率化というものがあると、市民に伝わりやすいのかなと、皆さんの努力を目に見える形で示すというのもご一考かなと思いましたが、いかがですか。

本江会長

ファイルメーターというのですよね。本棚の幅というか、1人当たりの棚の長さですね。書類を積むと最近のオフィスは30センチとかがターゲットです。いかがですか。

事務局（総務局長）

色々民間での取組みを含めて、我々粗々な検討の中で、個人のデスクはやめようとか、そんなのもう民間では常識だよとか色々な話題の中で建物をどうしようかという議論にはなっておりますので、今回はこの計画の28年度の成果をご説明する回になりますが、委員の皆様からも、もっと進んでいるところは幾らでもあるよと、このスピードではだめだよというご意見や、我々が28年度の成果を示して、そんな成果を言っているようではだめだよというまたご指摘もいただいて、この5年間に、もしこの計画自体をもう少しスピードアップしてここを変えろというご指摘があれば、それも対応していかなければならないと思っております。

今日はそのための第1回目として、この計画としてはこういうスタイルで、スタンスでつくりましたというご説明でございますということで、ご理解を頂ければと考えております。

(3) その他

本江会長

ありがとうございます。一応、議事には「その他」もありますが、何か議題以外のところがございますか。

事務局（行財政改革課長）

事務局からは特にございません。

本江会長

では、無いようでしたら終了ということで、事務局にお返し致します。

(4) 閉会

事務局（司会）

本江会長、ありがとうございました。

以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。どうもありがとうございました。